

## 伊崎文庫の紹介 一太宰治研究の新たな拠点として—

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 膽吹, 覚, Ibuki, Satoru メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10098/00028964">http://hdl.handle.net/10098/00028964</a>

## 伊崎文庫の紹介

—太宰治研究の新たな拠点として—



語学センター日本語教育部

准教授 膽吹 覚

IBUKI Satoru

専門：書誌学、日本文学

好き：岡本綺堂、京極夏彦

苦手：ライトノベル

2015 (平成27) 年、本学総合図書館に伊崎文庫 (特殊資料室内) が創設された。伊崎文庫は本学名誉教授・伊崎公德氏が長年にわたって蒐集・所蔵されていた太宰治関係の書籍約450点を、伊崎氏より一括して本学に寄贈いただいたものである。

伊崎公德氏は1934 (昭和9) 年、青森県弘前市生まれ。1963 (昭和38) 年に金沢大学大学院を修了。その後、同医学部付属病院神経科・精神科に医師として勤務。伊崎氏の専門は神経病理学である。1976 (昭和51) に福井県立精神病院院長に就任。1983 (昭和58) 年に国立福井医科大学 (現在の福井大学医学部) 精神医学講座教授に着任し、1999 (平成11) 年3月に同大学を退官。同年4月より福井県立大学看護福祉学部教授に就任。89歳の現在も現役の医師として、松原病院 (福井市) の顧問を務めておられる。

2021 (令和3) 年4月8日、私は総合図書館で伊崎氏とお会いし、伊崎氏の太宰治、そして伊崎文庫への想いを伺った。本稿ではこの日のインタビューを織り交ぜながら伊崎文庫の概要を紹介したい。

伊崎氏が太宰治の作品や研究書を蒐集し始めたのは、氏が金沢大学に医師として勤務した頃からだという。伊崎氏が太宰に関心を寄せた理由は、太宰が伊崎氏と同じ青森県出身であったからだという。太宰は1909 (明治42) 年に青森県北津軽郡金木村 (現在の五所川原市) に生まれた人である。太宰が死去した1948 (昭和23) 年当時、伊崎氏は14歳であった。また、伊崎氏は精神科の医師という立場からも太宰に関心を寄せていたと語っておられた。自殺未遂や薬物中毒を繰り返しながらも小説を発表し続ける太宰は、精神科医にとって学問的

に興味ある対象であったのであろう。

伊崎文庫は、(1)太宰治及び彼の作品に関する研究書、(2)『太宰治全集』(筑摩書房版) や日本近代文学館編『名著初版本復刻 太宰治文学館』などの全集類、(3)太宰の小説の単行本、(4)その他 (図録やパンフレットなど) に大別できる。

その中心 (約7割) を占めるのは(1)太宰治及び彼の作品に関する研究書である。伊崎文庫を閲覧した研究者の一人は「これほどの数の太宰に関する研究書が1ヶ所にまとまって所蔵されていることの意義は大きい」と評価しておられた。太宰は現在でも人気のある作家であり、その研究者、愛読者は多い。現在、太宰の自筆原稿や草稿などは日本近代文学館 (東京目黒区) に所蔵されており、太宰の遺品などは彼の生家を利用した斜陽館 (青森県五所川原市) に保管されている。しかし、この2館はともに福井県から遠く、北陸地方に住む研究者には不便である。そうした研究者にとって、伊崎文庫は恰好の研究拠点となるであろう。なお、伊崎文庫は特殊文庫であるので、その利用は館内での閲覧に限られている。



太宰治及び作品に関する研究書 (一部)

一方で、(3)太宰の小説の単行本は30点に満たない。また、その文庫本 (小説) もほとんど収蔵されていない。インタビューで私は伊崎氏に、「ご寄贈された書籍の他にご自宅に単行本や文庫本を残しておられるのか」と伺ったところ、その答えは否であった。太宰に関する研究書の数に比べて、その単行本・文庫本はかなり少ないといってよい。これも伊崎文庫の特徴と言ってよいだろう。インタビューでも伊崎氏の単行本へのこだわりはほとんど見られず、ましてや初版本への執着はまったく感じられなかった。

インタビューの最後に伊崎文庫の今後について伺った。伊崎氏は「若い人に太宰治の作品を読んでほしい。そして、この文庫が活用されることを望んでいる」とおっしゃっていた。太宰の作品は総合図書館3階と閉架書庫とに配架されているので、学生諸君にはそれらを借り出して読んでほしい。そして、本学の伊崎文庫が太宰治研究の新たな拠点となり、今後、太宰治に関する研究が更に進展することを期待したい。



総合図書館一階ラウンジで、伊崎先生 (右) にインタビューする膽吹先生 (左)



伊崎文庫の様子 (一部)



太宰治作品初版本



『人間失格』(筑摩書房 1948年) と、短編集『女の決闘』(河出書房 1940年) より『走れメロス』

「伊崎文庫」の図書閲覧をご希望の際は、OPAC (蔵書検索) で検索し、書名等をお知らせください。職員がお持ちします。また、今夏 (7/16 予定) には、公開講座「太宰治を愉しむ—『人間失格』『走れメロス』の装幀を中心に—」を開催します。学内外問わず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。